



1. 旧東急東横線の線路線形を踏襲した2階貫通通路 2. 外観(全景) 3. カマボコ屋根と目玉パネルを再現した国道246号デッキ



日建連表彰2021



第62回BCS賞

渋谷ストリーム

選定理由

【選考委員】
竹内徹・堀部安嗣・大西正修

次世代に本当に必要とされる再開発とは。そのことを考えさせられる計画である。敷地は旧東急東横線渋谷駅跡地とその周辺で、昭和時代の無数の計画により都市の動線やインフラなどがひしめき合い混沌としていた場所であるが、その姿に愛着とかけがえのない思い出を持っている人々も数多くいたであろう。時代や動線や人の心理が複雑に絡み合った場所に、商業施設、オフィス、ホール、ホテルなど様々な用途のものを複合させて大規模な開発を行う時、現状の複雑さをリセットして単純化し、更にその混沌さを漂白してゆく開発計画が今までは多かつたように思う。結果、リセットによって一見現代的な新しさが生まれたように感じるが、人々の記憶や動きを破壊してつくられたもの

は意外と賞味期限が早く、魅力が持続しないことにも私たちは気付き始めている。何より漂白された再開発は「日本中どこに行っても同じ顔」になる危険性を孕んでいる。そんななか、渋谷ストリームはインフラを整備すること、新たな人の流れを生み出すこと、エネルギーを連携させて環境性能を高めること、地域コミュニティを醸成させること、地域の防災拠点となることといった今日の大規模複合施設や再開発に求められることに真摯に向き合い、建築的な結果を出しながらも、どこか従来の再開発に見られるような淡白さやよそよそしさを感ぜることがない。親しまれたホームのカマボコ屋根を再構築したり、独特な曲線を描いていた線路のカーブをそのまま商店街の通路に利用したりといったことも、もちろん記憶の継承に一役買っているように思うが、決して物理的な「思い出の

品」や「記号的なもの」を残すだけではこういうレベルまでには到達できなかつただろう。

この建物には大小、縦横、様々なヴォイドが効果的にかつ注意深く空けられている。そのヴォイドからは視覚的なものはもちろんであるが、匂いや音や風や気配、更には歴史の流れのようなものが伝わってくる。それらはこの場所にずっと変わらずあり続け、蓄積された人々の想いや愛着のようなものを表しているようだ。またその時間を内包した風の流れにより、この場所の今までの主役が脇役になり、脇役が主役になるような感覚を人々に抱かせる。昭

和の頃はこの場所では脇役だった渋谷川が、時を超えて大昔の時のようにこの場所の主役となった。昭和の頃は主役だった電車とホームが今は脇役となり、代わって人の居場所がこの場所の主役になった。竣工時からこのように複雑で混沌とした情感が空間にまとうりついている状態を創出することは、建築主、設計者、施工者の気持ちが一体とならなければできなかったことだろう。具体的な「もの」を通してではなく、人々の「五感、六感」に働きかける気配によって記憶を再構成しながら継承させることに成功していることに高い評価を与えたい。

渋谷ストリーム 概要

- 所在地 東京都渋谷区渋谷3-21-3
 - 建築主 渋谷駅南街区事業推進者東急(株)
 - 設計者 (株)東急設計コンサルタント、(株)シーラカンズアンドアソシエイツ
 - 施工者 東急建設(株)、(株)大林組
 - 竣工日 2018年8月1日
- 敷地面積 A棟: 934.36㎡
B-1棟: 4,774.52㎡
C-1棟: 487.14㎡
D棟: 524.43㎡
 - 建築面積 A棟: 1,713.21㎡
B-1棟: 4,166.75㎡
C-1棟: 10.71㎡
D棟: 434.45㎡
 - 延床面積 A棟: 7,214.18㎡
B-1棟: 108,376.68㎡
C-1棟: 21.42㎡
D棟: 375.93㎡
- 階数 A棟: 地上7階、地下4階、塔屋1階
B-1棟: 地上35階、地下4階、塔屋3階
C-1棟: 地上2階
D棟: 地上2階、地下2階
 - 構造 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造

詳細や他の写真などは
左記のQRコードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場/大宮区役所・大宮図書館/軽井沢風越学園/The Okura Tokyo/大倉集古館/渋谷ストリーム/昭和電工(大分県立) 武道スポーツセンター/大丸心齋橋店本館/高崎芸術劇場/知立の寺子屋/日本橋室町三井タワー/日本橋スマートエネルギープロジェクト/東大阪市文化創造館/福田美術館/松原市民松原図書館 「読書の森」/ミュージアムタワー京橋/ミライオン(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。